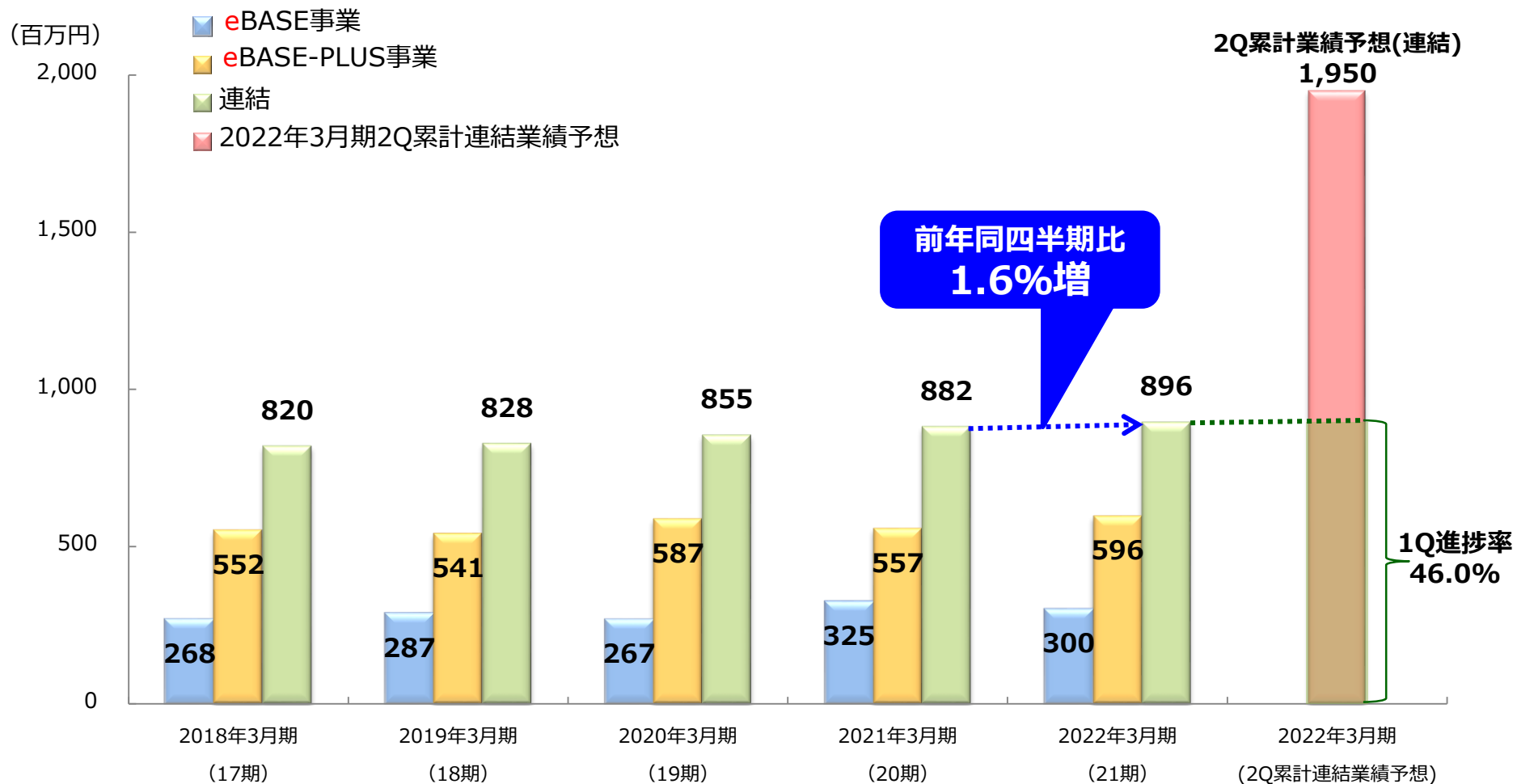


eBASE株式会社 2022年3月期 第1四半期決算と事業報告

証券コード：3835

※当第1四半期連結累計期間の期首より「収益認識会計基準」等を適用しております。第20期以前の数値の遡及修正はおこなっておりません。
なお、「収益認識会計基準」の詳細については、2021年7月30日付け「2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）P7（会計方針の変更）」をご確認ください。

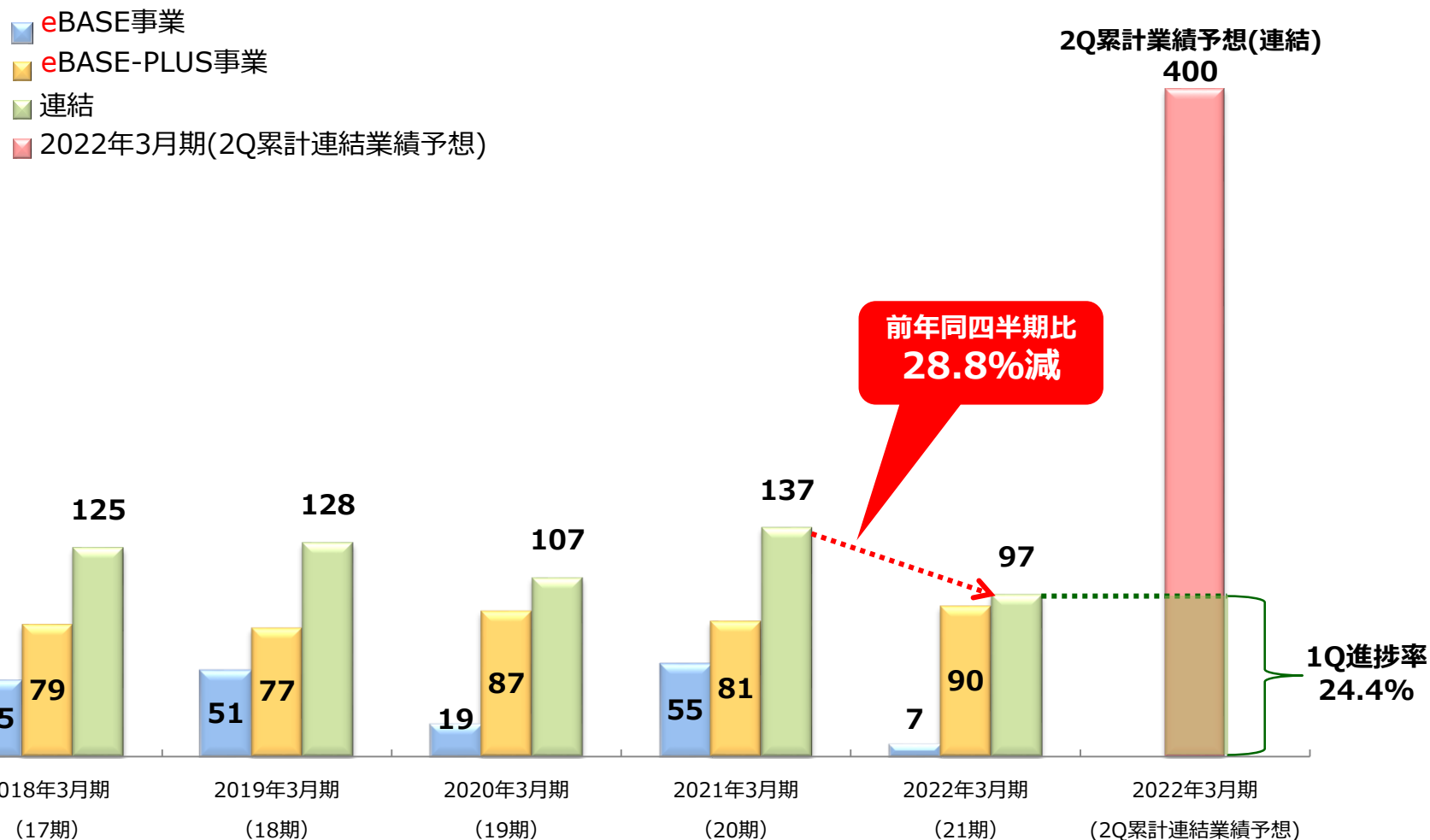
第1四半期決算 連結売上高の推移



注1) セグメント間取引については、相殺消去しております。

第1四半期決算 連結経常利益の推移

(百万円)



注1) セグメント間取引については、相殺消去しております。

第1四半期決算 連結業績・連結貸借対照表の推移

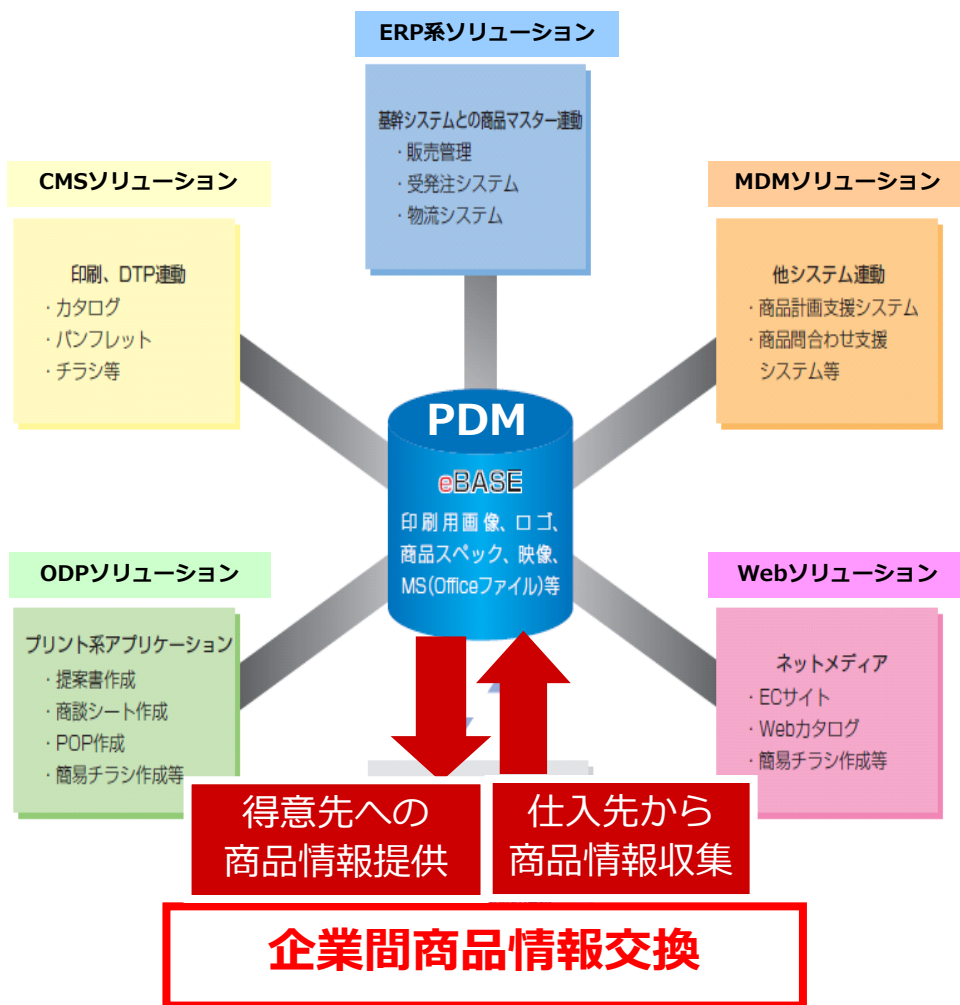
(単位：百万円)

	2018年3月期 (第17期)	2019年3月期 (第18期)	2020年3月期 (第19期)	2021年3月期 (第20期)	2022年3月期 (第21期)
売上高 (eBASE事業) (eBASE-PLUS事業) (セグメント間取引)	820 (268) (552) (△0)	828 (287) (543) (△2)	855 (267) (590) (△2)	882 (325) (557) (△1)	896 (300) (596) (△0)
営業利益	118	118	98	129	92
経常利益 (eBASE事業) (eBASE-PLUS事業) (セグメント間取引)	125 (45) (79) (0)	128 (51) (78) (△0)	107 (19) (87) (0)	137 (55) (81) (0)	97 (7) (90) (0)
親会社株主に帰属する 当期純利益	81	87	71	92	64

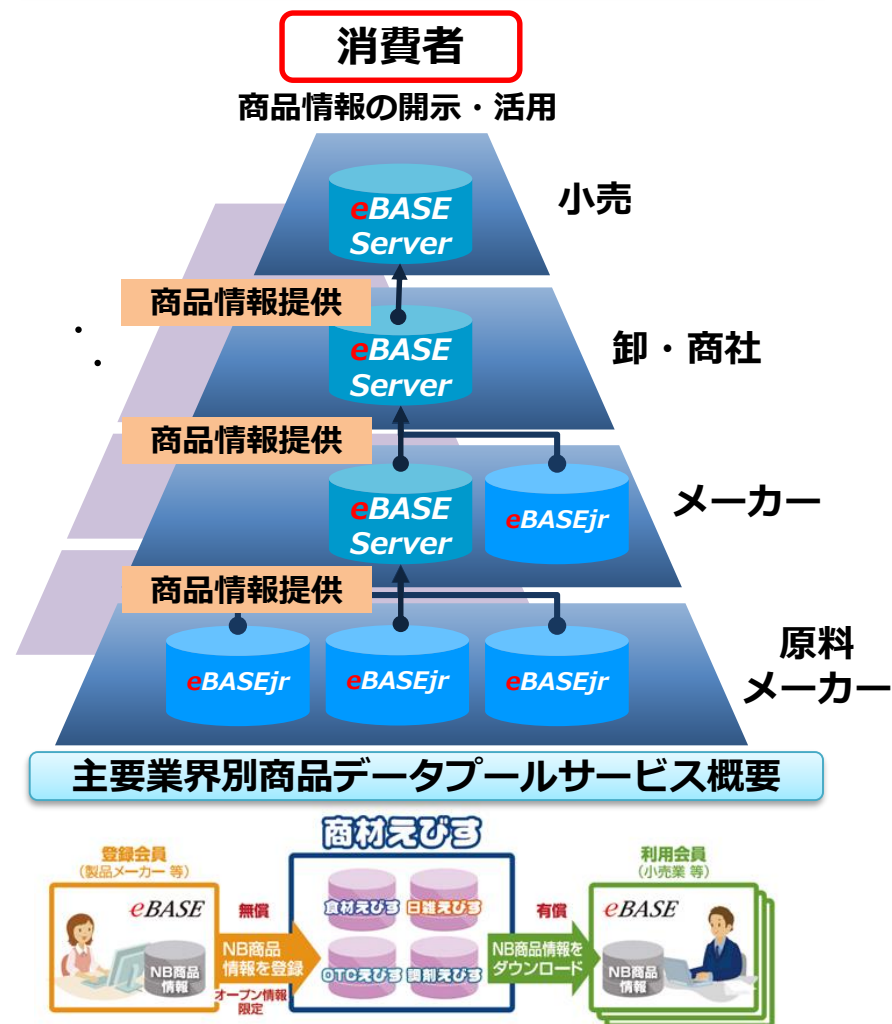
	前期 (2021年3月末)	当期 (2021年6月末)	前期末比	
流動資産	4,471	4,131	△339	現金及び預金+3、受取手形・売掛金及び契約資産△350、 有価証券+6、仕掛品+2
固定資産	1,413	1,382	△31	
(有形+無形資産)	(82)	(114)	(31)	
(その他)	(1,330)	(1,268)	(△62)	投資有価証券△72、その他+9
資産合計	5,884	5,513	△371	
流動負債	470	389	△81	買掛金+1、未払法人税等△162、その他+78
負債合計	470	389	△81	
株主資本合計	5,363	5,064	△298	利益剰余金△298 収益認識会計基準等を適用したことによる累積的影響額△100 (配当金支払△262) (親会社株主に帰属する当期純利益の計上+64)
新株予約権	10	11	0	
純資産合計	5,414	5,124	△289	
負債・純資産合計	5,884	5,513	△371	

eBASE事業概況

統合商品データベースeBASE概要

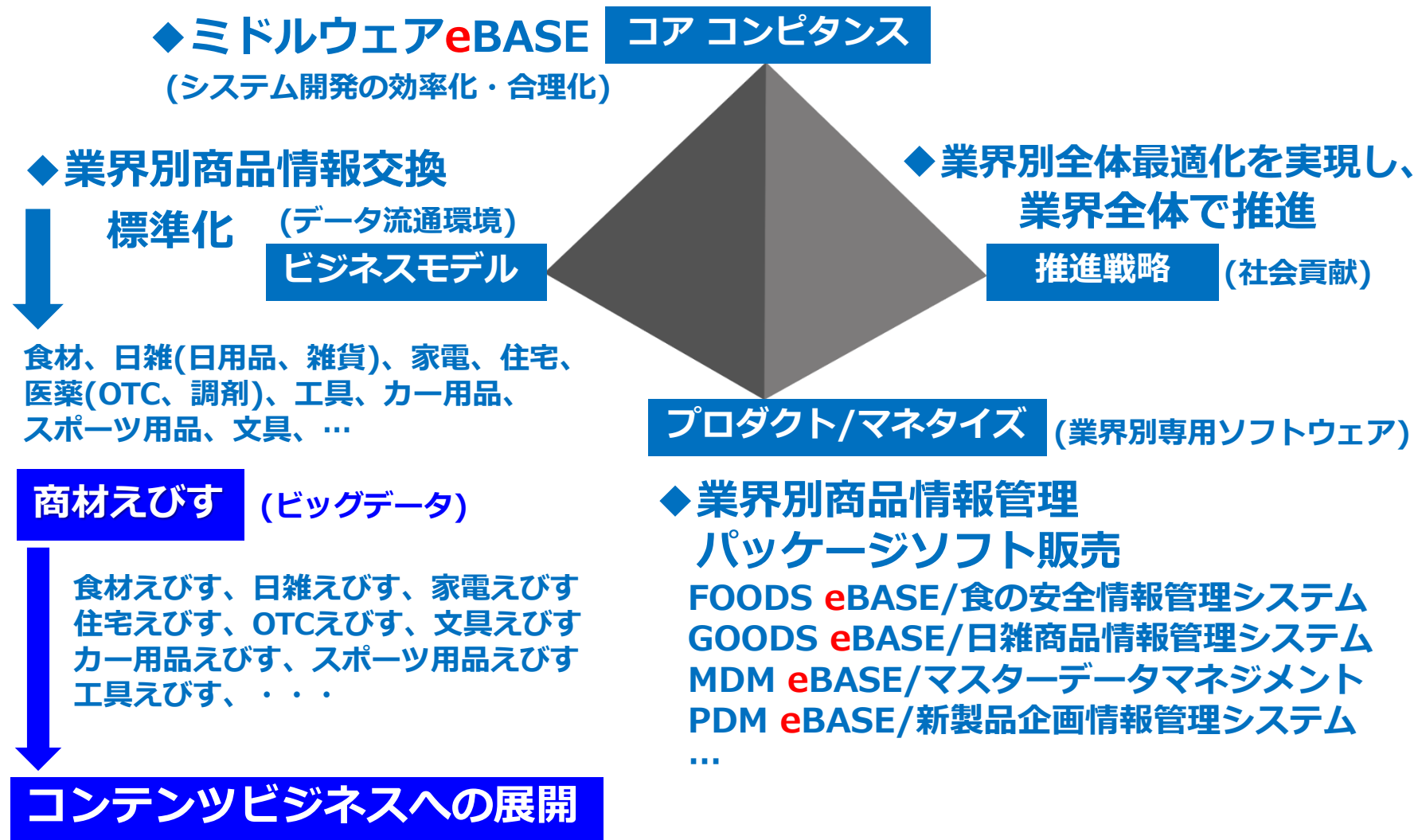


業界別の商品情報交換サービス概要



eBASE事業のビジネスシナリオの経緯と現状

「ミドルウェア eBASE」 + 「商品情報交換の全体最適化」



eBASE事業の中長期戦略

「商材えびす」 + 「特許」 + 「ミドルウェア eBASE」 で、更なるDX活用展開

◆商材えびす
(ビッグデータ)

コア コンピタンス

◆ BtoBtoCモデル

ビジネスモデル

◆小売企業(B)と消費者(C)の
商品データ利活用促進

推進戦略

(小売企業のDX・マーケティング)

小売(B)企業の
DX支援

販促(B)効果増

採用小売が
普及促進(BtoC)

消費者 (C)
ユーザー増

プロダクト/マネタイズ (消費者ニーズ)

商品データ活用を生かした消費者向けアプリ群

e食なび、e食くいず、e食カタログ、e食ちらし
e食れしび、インバウンド対応、...

ミドルウェア eBASE/スマホアプリ

各種新サービスの基盤となる特許戦略

特許第6758734号

特許第6798741号

特許第6807105号

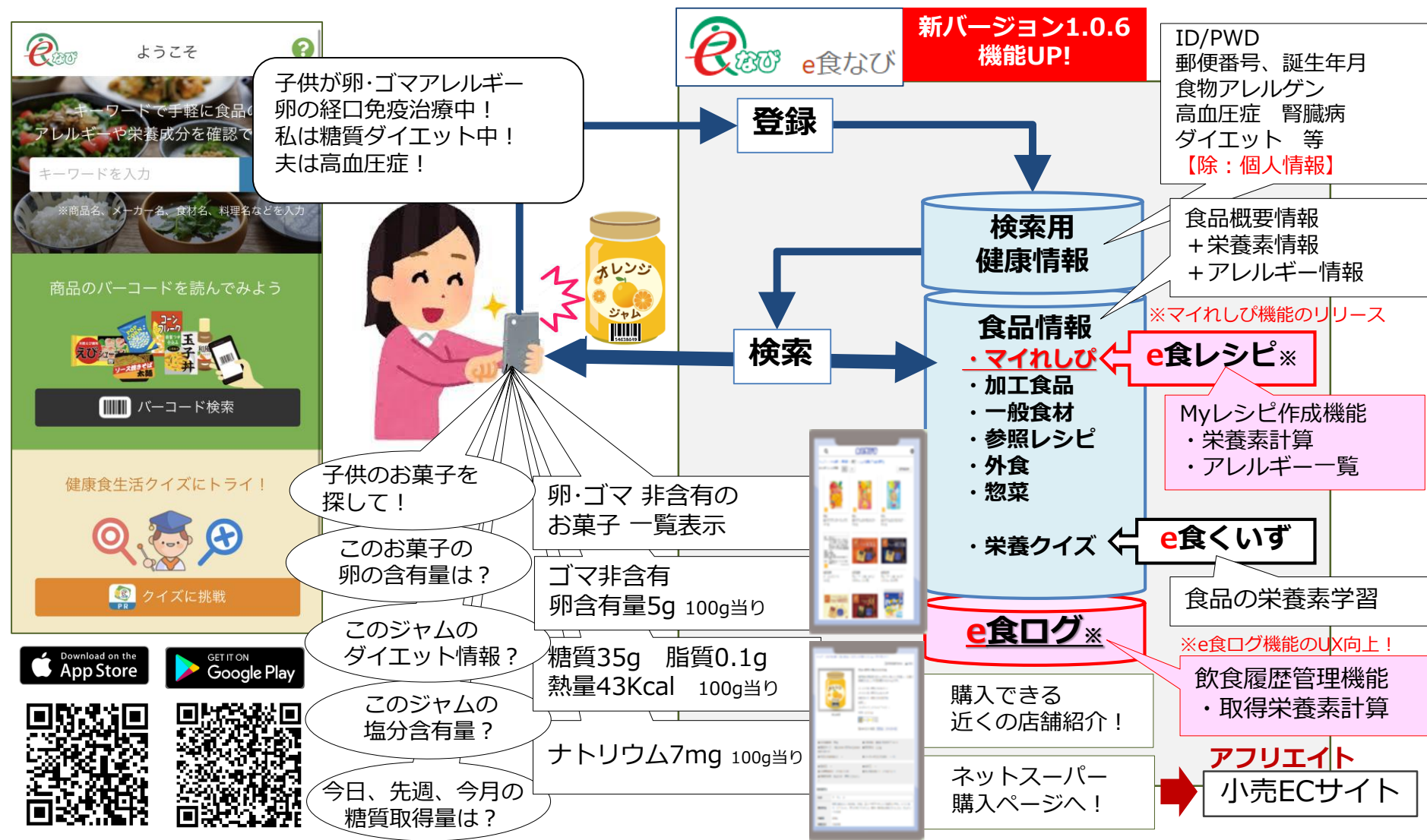
特許第6820016号

.....

Personal Profileビジネスへ

消費者向け健康支援スマホアプリ事例(BtoBtoC)

小売11社の賛同を得たアレルギーや栄養成分表示の消費者向け健康支援スマホアプリ「**e食なび**」

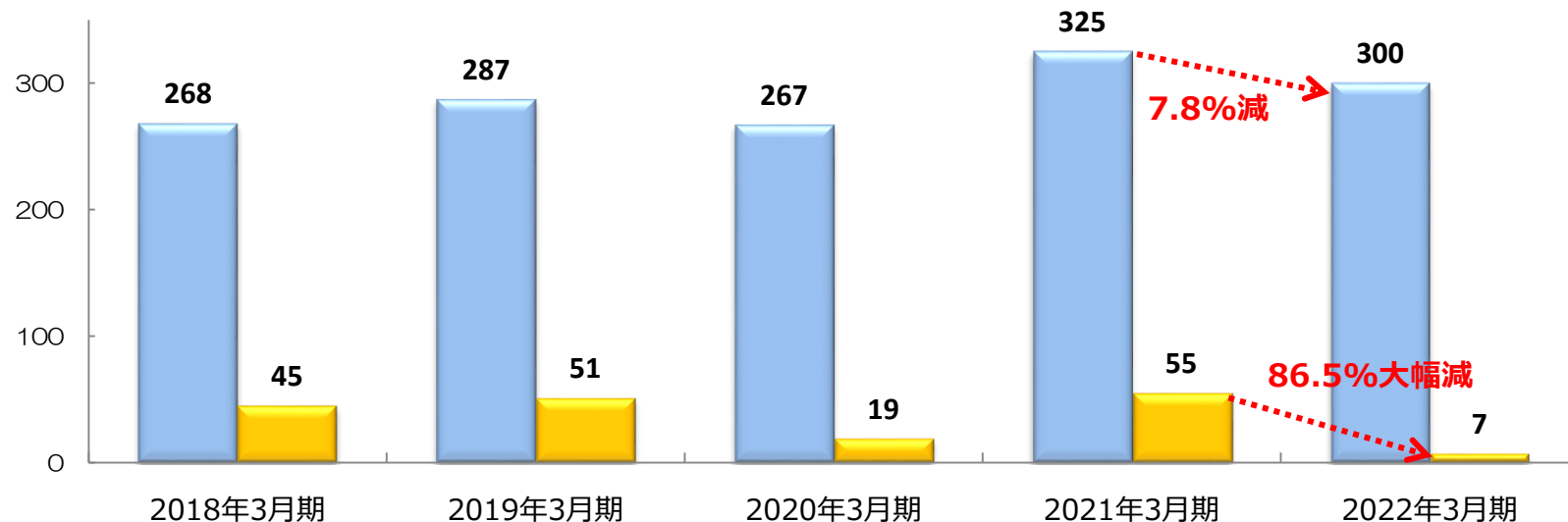


第1四半期決算セグメント毎の概況/ eBASE事業

eBASE事業（パッケージソフトビジネス）

（百万円） ■ 売上高 ■ 経常利益

eBASE事業 売上高と経常利益の推移



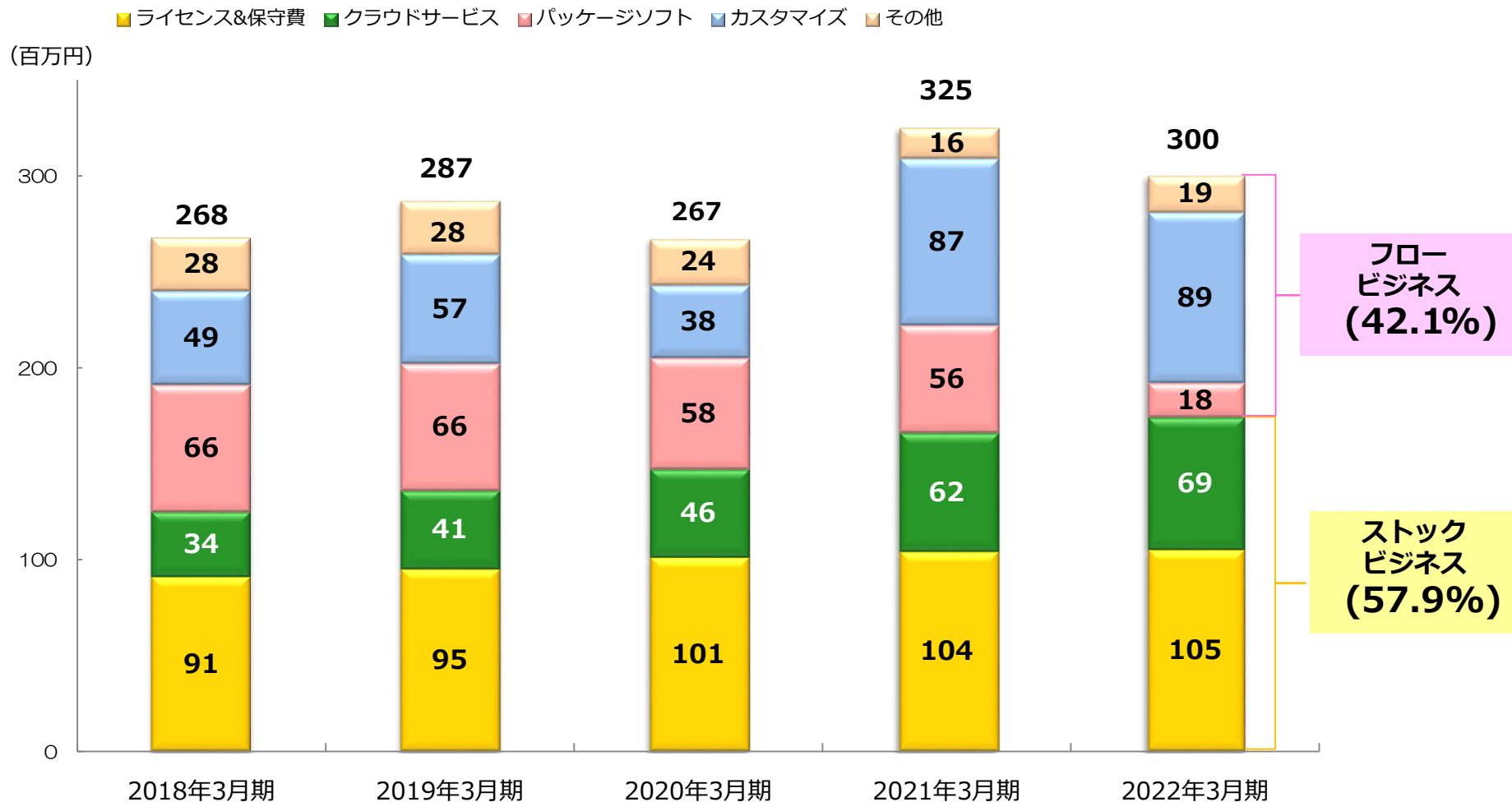
総括

注1) セグメント間取引については、相殺消去しておりません。

- ・ 食品業界では、前年同四半期に比べ食品スーパーへの商談は増加傾向にあるものの、案件の進捗において、期初の立ち上がりに若干の遅れがあり、売上高は前年同四半期比で減少
- ・ 消費者向けスマホアプリ(e食なび等)による「BtoBtoCモデル」の推進
- ・ 日雑業界では、コロナ渦により首都圏での商談が引き続き停滞傾向にあり、売上高は前年同四半期比で減少
- ・ 日用品メーカー向けに製品詳細情報管理システム「eB-goods(R)」をリリース
- ・ 「商材えびす」を活用した商品マスタ登録支援システム「MDM eBASE」の販促において、新たな大手ホームセンターでも導入が開始、更に他の大手ホームセンターでも受注が決定
- ・ 住宅業界では、導入事例紹介の機会損失の影響、案件の延期や長期化が継続しているものの、深耕営業が伸びをみせたことにより、売上高は前年同四半期比で増加

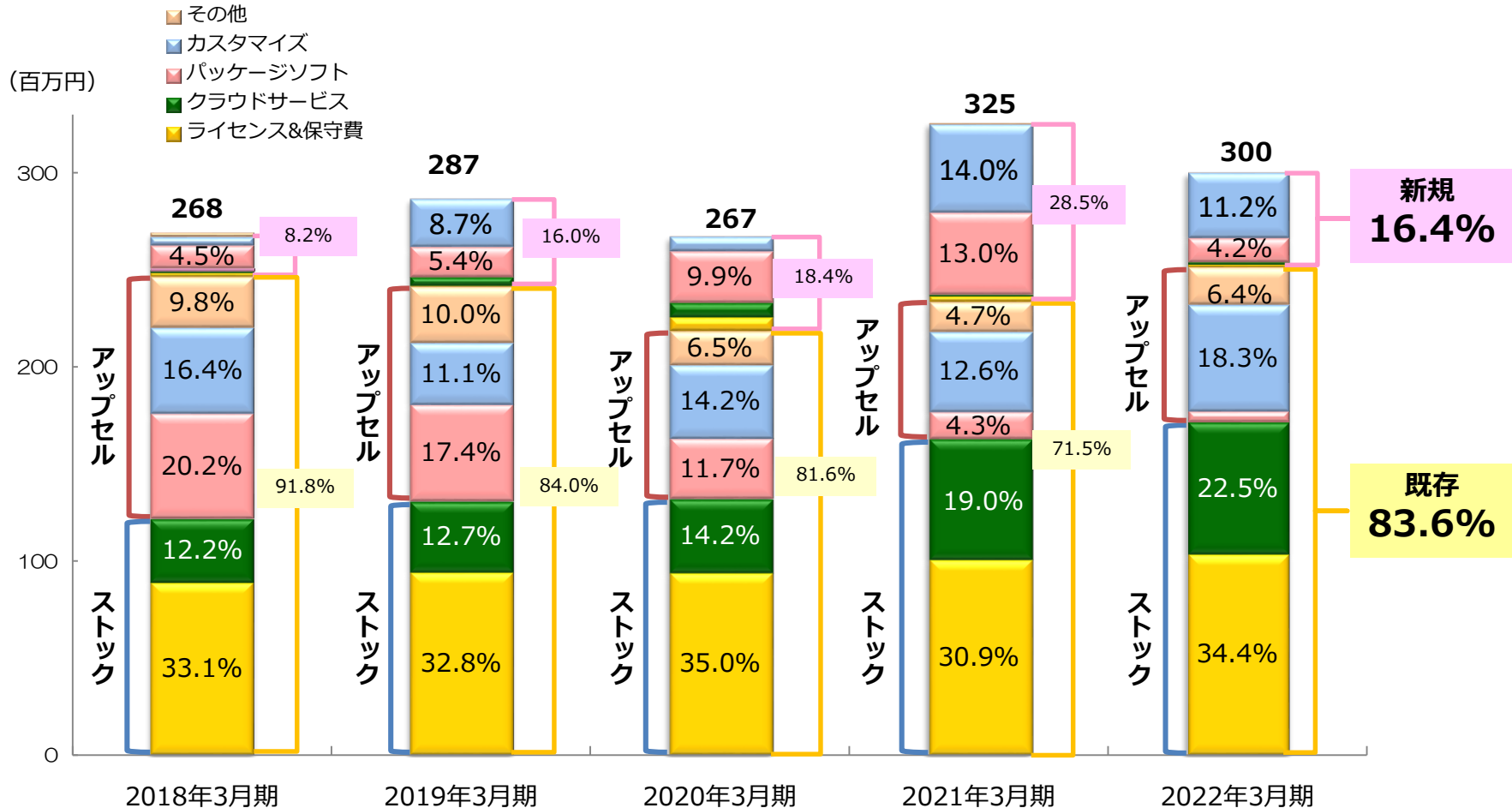
第1四半期決算セグメント毎の概況/ eBASE事業

種類別販売実績の推移



第1四半期決算セグメント毎の概況/ eBASE事業

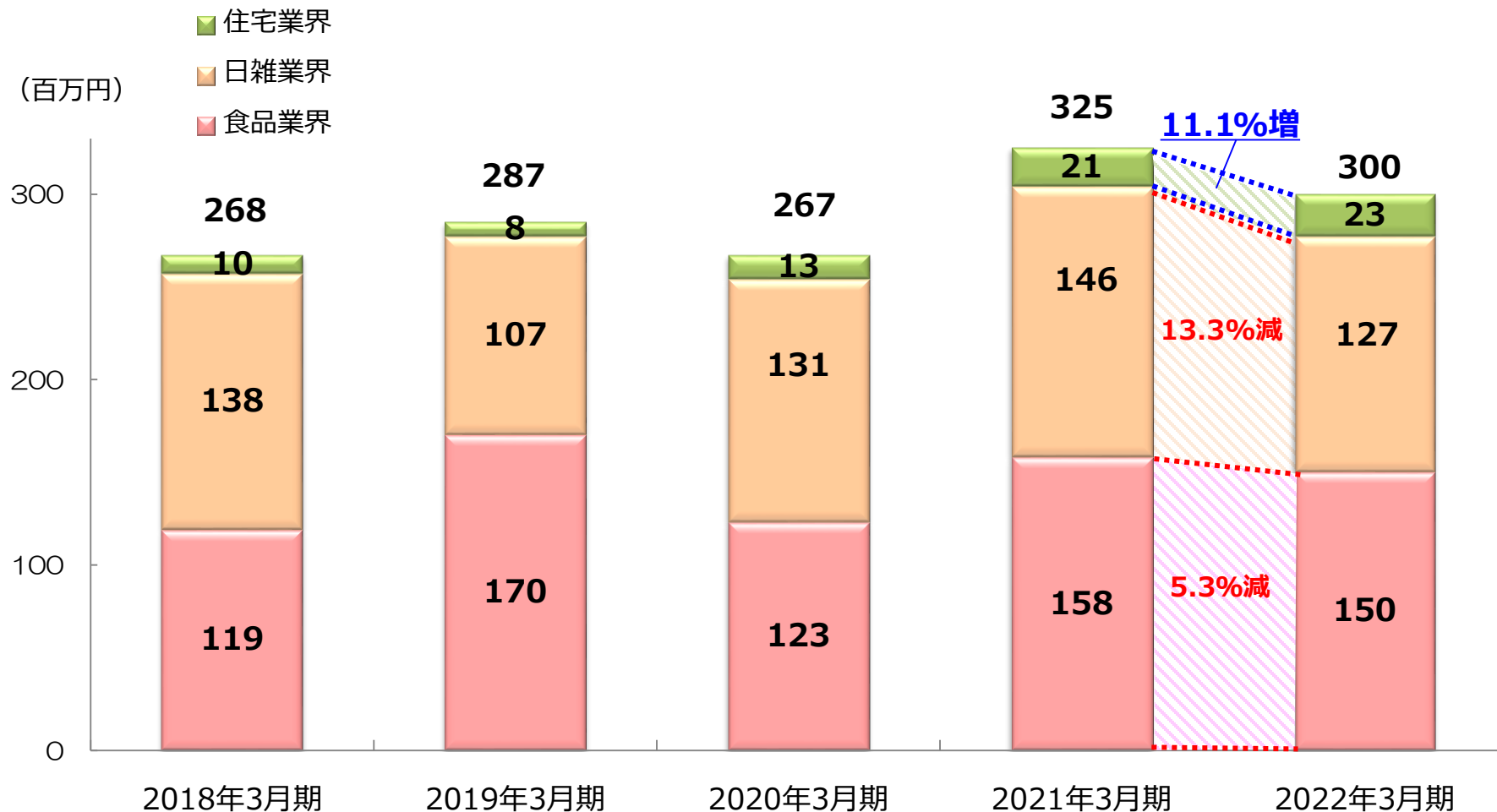
新規・既存別販売実績の推移



注1) 3%未満の数字は記載を省略しております。

第1四半期決算セグメント毎の概況/ eBASE事業

業界別売上実績の推移



第1四半期決算セグメント毎の概況/**e**BASE事業

食品業界 今期施策とその進捗

2022年3月期 施策

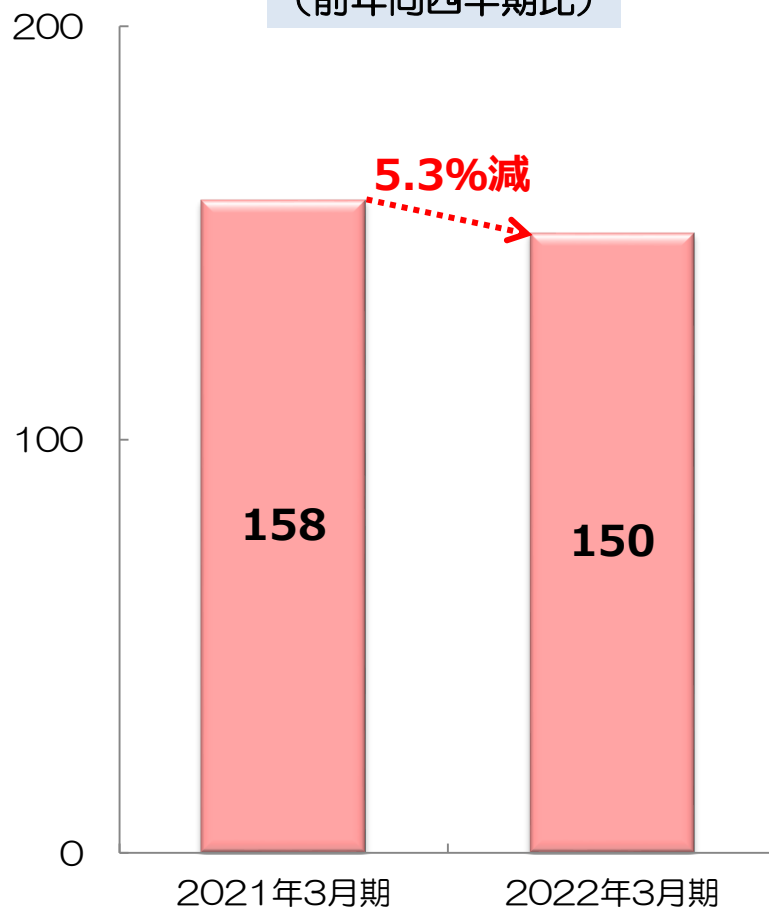
- ・ 現事業モデル「FOODS**e**BASE」の継続推進
- ・ 商品データプールサービス「食材えびす」のデファクト化の継続推進と販促強化
- ・ 消費者向けスマホアプリ(**e**食なび等)による「BtoBtoCモデル」への進出
- ・ 特許戦略に基づく各種新サービスの開発

その進捗

- ・ 売上実績(1Q累計): 150百万円
- ・ 「FOODS **e**BASE」において、「食材えびす」の普及推進も含めて**e**BASE商品情報交換の標準化が進展
- ・ 「食材えびす」の卸会員サービスの開始や品質表示データの自動点検機能とデータ登録者への点検結果通知サービスを開始
- ・ 消費者向けスマホアプリ「**e**食なび」等によるBtoBtoCモデル推進
- ・ 前年同四半期に比べ食品スーパーへの商談は増加傾向にあるものの、案件の進捗で期初の立ち上がりにより若干の遅れがあり、売上高は前年同四半期比で減少

(百万円)

食品業界 売上実績
(前年同四半期比)



第1四半期決算セグメント毎の概況/ **e**BASE事業

日雑業界 今期施策とその進捗

2022年3月期 施策

- ・日雑業界（ドラッグストア業界、ホームセンター業界、文具業界、スポーツ用品業界、カー用品業界、通販業界等）で商品情報交換環境の全体最適化を推進
- ・商品データプールサービス「日雑えびす」を中心に「商材えびす」の販促を推進
- ・顧客企業のカスタマイズ型統合商品DB受託開発の推進

その進捗

- ・売上実績（1Q累計）：127百万円
- ・「日雑えびす」の販促に注力
- ・「商材えびす」を活用した商品マスタ登録支援システム「MDM **e**BASE」の販促で、新たな別の大手ホームセンターでも導入開始、更に他の大手ホームセンターでも受注が決定
- ・コロナ禍で商談遅延、特に首都圏での商談が引き続き停滞傾向にあり、売上高は前年同期比で減少も停滞していた大型案件が立ち上がりの動きをみせ始めている

(百万円)

200

日雑業界 売上実績
(前年同四半期比)

13.3%減

100

146

127

0

2021年3月期

2022年3月期

第1四半期決算セグメント毎の概況/eBASE事業

住宅業界 今期施策とその進捗

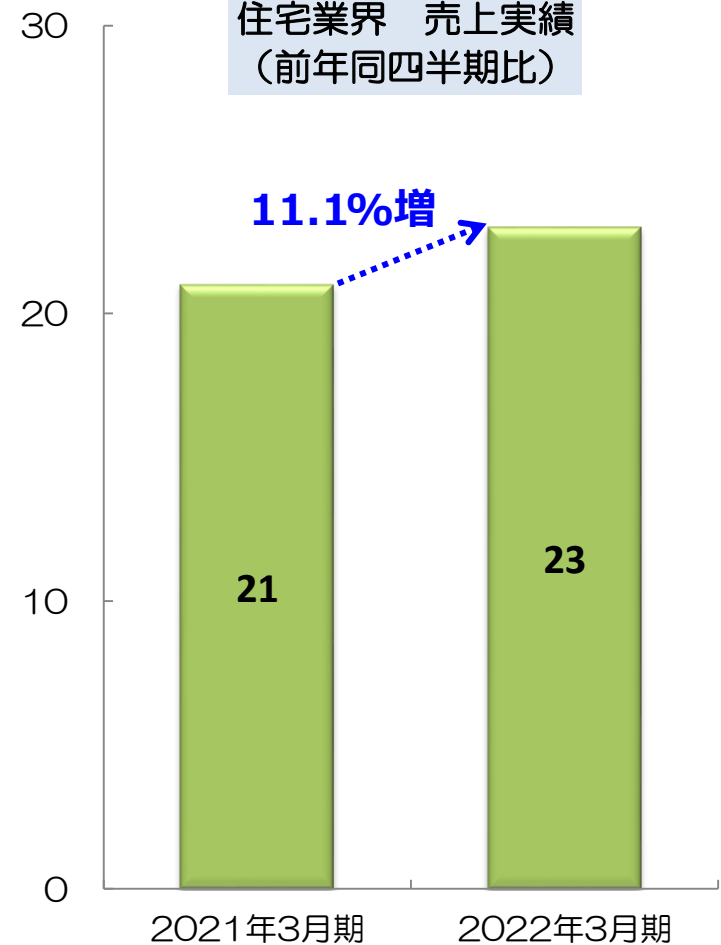
2022年3月期 施策

- ・商品データプールサービス「住宅えびす」のデファクト化推進
- ・顧客企業のカスタマイズ型統合商品DBの受託開発の推進

その進捗

- ・売上実績（1Q累計）：23百万円
- ・大手ハウスメーカーで運用中の「住宅えびす」を、他の大手ハウスメーカーでも利用を開始
- ・コロナ禍によりハウスメーカー参加の業界会合等が、通年で延期や中止され、導入事例紹介の機会損失が大きく影響し、案件の延期や長期化が依然として継続しているものの、深耕営業が伸びをみせ、売上高は前年同四半期比で増加

(百万円)



eBASE-PLUS事業概況

eBASE社や顧客企業からの受託開発、受託オペレーション、受託サーバー保守等の
「IT開発アウトソーシングビジネス」

◆システムソリューション

①ソフトウェア開発

企画・分析・設計・構築・導入・運用管理・保守をサポート。

②インフラ構築

サーバー、クライアント環境構築業務をサポート。

◆サポートサービス

①統合運用管理

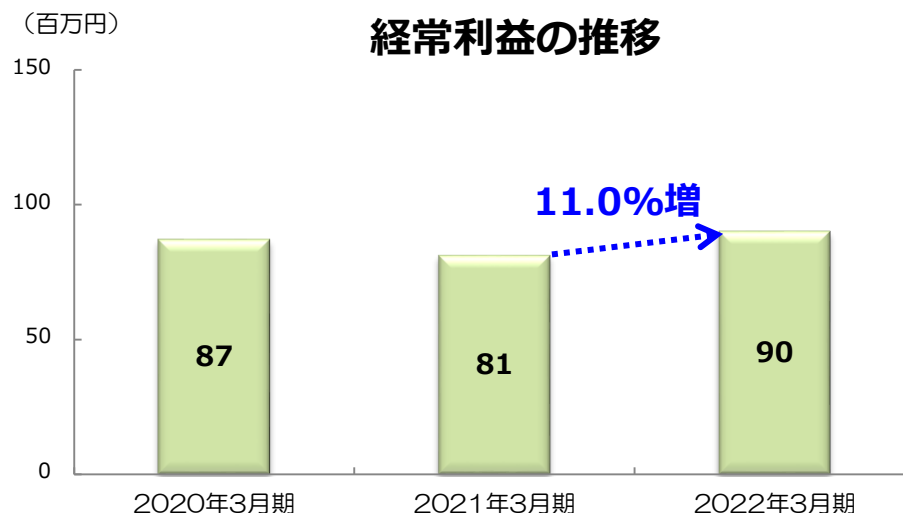
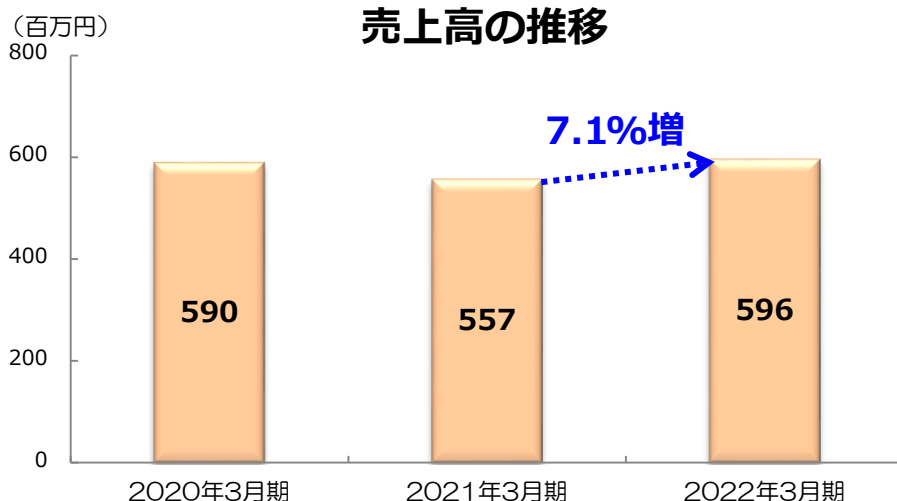
ITシステムの運用をサポート。

②ヘルプデスク

1次対応から技術スキルを要する2次対応までのヘルプデスク。

第1四半期決算セグメント毎の概況/ eBASE-PLUS 事業

eBASE-PLUS事業（IT開発アウトソーシングビジネス）



総括

注1) セグメント間取引については、相殺消去しておりません。

2022年3月期 施策

- ・ 既存IT開発アウトソーシングビジネスの維持
- ・ 安定衰退モデルから低成長モデルへの転換策検討
- ・ eBASEビジネスとの連携
- ・ 人材の新規採用の継続及び育成
- ・ 優良M&A案件の推進

その進捗

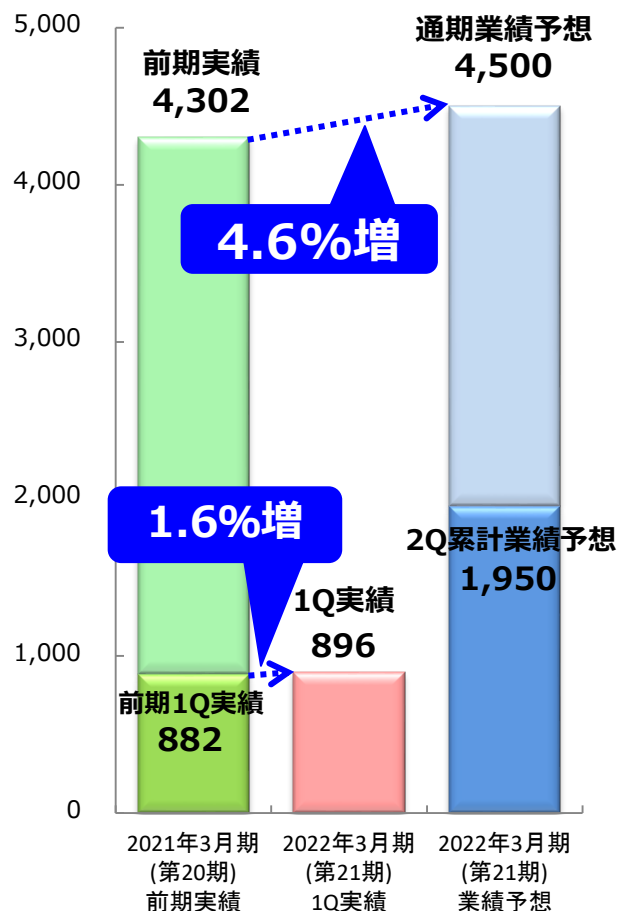
- ・ 売上実績（1Q累計）596百万円(増収)
- ・ 利益実績（1Q累計）90百万円(増益)
- ・ 顧客ニーズの迅速な把握と対応による案件獲得に注力
- ・ 稼働工数増加のため中途採用を推進するも、引き合いに見合う人材の確保は困難な傾向が継続
- ・ 顧客との単価交渉は継続的に実施
- ・ 前期から継続する案件の開発遅れ等があり、一時的に稼働が上がり、売上、利益ともに前年同期比で増加

2022年3月期の連結業績予想

■ 2021年3月期(1Q実績)
 ■ 2021年3月期(通期実績)
 ■ 2022年3月期(1Q実績)
 ■ 2022年3月期(2Q累計業績予想)
 ■ 2022年3月期(通期業績予想)

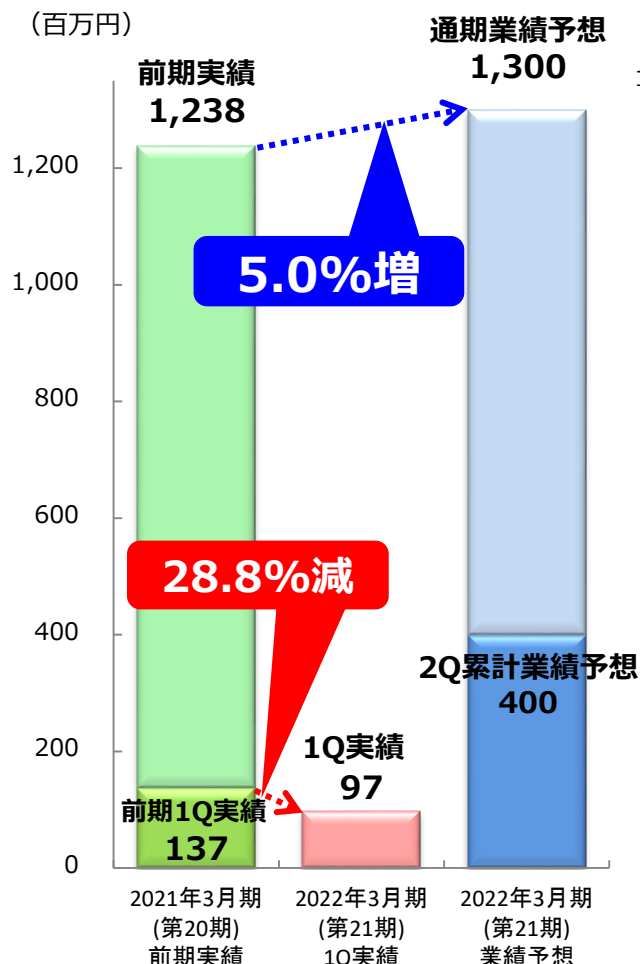
売上高

(百万円)



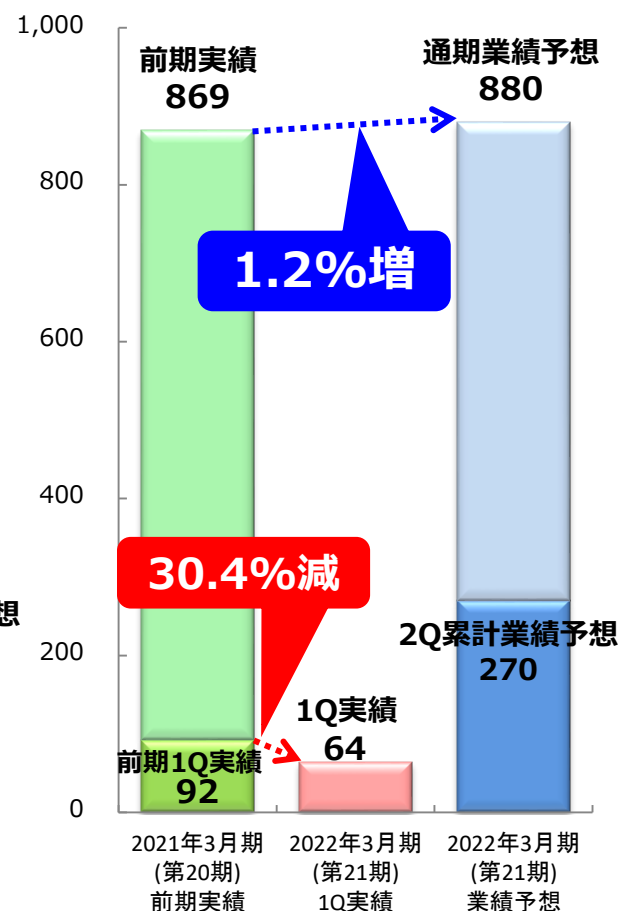
経常利益

(百万円)



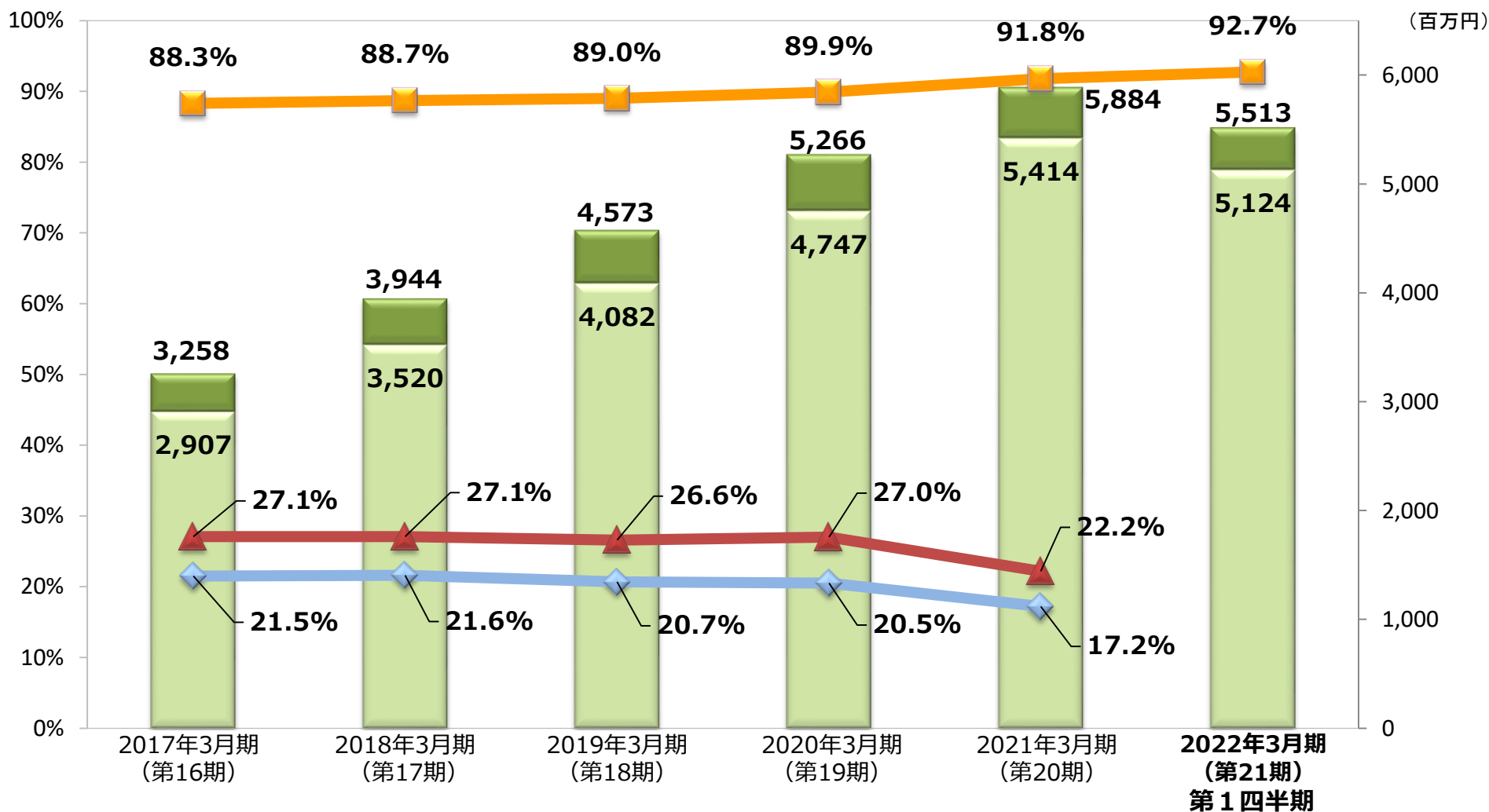
親会社株主に帰属する 四半期純利益

(百万円)



資本状況(ROE及びROA等)の推移

■ + ■ 総資産（連結）
 ■ 純資産額（連結）
 ◆ ROE（自己資本当期純利益率）
 ▲ ROA（総資産経常利益率）
 ■ 自己資本比率



本資料お取り扱い上の注意点

本資料は決算説明及び当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

IRに関するお問合せ
管理部 06-6486-3929
management@ebase.co.jp